

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年1月25日(2007.1.25)

【公開番号】特開2002-60536(P2002-60536A)

【公開日】平成14年2月26日(2002.2.26)

【出願番号】特願2000-250882(P2000-250882)

【国際特許分類】

C 08 J	11/08	(2006.01)
C 07 C	27/00	(2006.01)
C 07 C	27/02	(2006.01)
C 07 C	31/20	(2006.01)
C 07 C	67/28	(2006.01)
C 07 C	69/82	(2006.01)
C 08 J	11/16	(2006.01)
C 08 L	67/03	(2006.01)
C 08 L	77/00	(2006.01)

【F I】

C 08 J	11/08	
C 07 C	27/00	
C 07 C	27/02	
C 07 C	31/20	
C 07 C	67/28	
C 07 C	69/82	A
C 08 J	11/16	
C 08 L	67/03	
C 08 L	77/00	

【手続補正書】

【提出日】平成18年11月15日(2006.11.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

該エステル交換反応はポリエステル廃棄物を基準として、MeOHを150～400重量%投入し、同時にエステル交換触媒をポリエステル廃棄物を基準として0.3～1.0重量%投入する。エステル交換反応系内の圧力は大気圧下近傍、反応温度は65～85で反応を進行させればよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

なお、DMTから固液分離したアルキレングリコールとMeOHとの混合液は、溶解したDMT、解重合触媒及びエステル交換触媒を含有しており、アルキレングリコール、MeOHは再度プロセスで使用するため各自に分離精製する。該分離精製操作は、蒸留操作に限定する必要はないが、蒸留により行う場合には、沸点の低いMeOHを最初に留去し

、塔底に残る液を次の蒸留塔に供給しアルキレングリコールを留去し釜残は廃棄する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

この濃縮液にエステル交換触媒として炭酸ソーダ0.5部とMeOH100部を投入した。常圧で液温を75、攪拌100rpmの状態を1時間保持し、エステル交換反応を実施した。